

日頃から
気をつけよう。



肥満に
ご注意!

肥満は犬猫自身の
負担になり、多くの病気の
原因にもなります。

気をつけるポイント!

1. 理想体重を知ろう!
2. 年齢に合わせたフードを与えよう!
3. おやつをあげたら主食を減らそう!
4. おねだりに負けない!

与えるフードの量は理想体重
が基準になります。獣医師に
相談してみましょう。

おやつは1日に必要な
カロリーの20%まで。

欲しがるとばかりを与えると、
偏食の原因やしつけの妨
げにもなります。

○フードの与え方

犬の場合



犬は目の前にある食べものをお腹いっぱい
になるまで食べる習性があります。
欲しがるとだけ与えるのではなく、フードの
重さを量って与える量を調整しましょう。

猫の場合



猫は昼夜を問わずに少量ずつ何回も食
べる習性があります。1日2~3回に分けて与
えるかドライフードを置いておくなど、こ
まめに食べられるように工夫しましょう。

○食器はいつもキレイに!

使い終わった食器には唾液や食べかすが
残っています。毎回洗い、乾燥させて清潔に
保ちましょう。



○飲みものにも注意を!

いつでも新鮮な水が飲めるように用意しま
しょう。人用のミネラルウォーターは、マグ
ネシウムなどのミネラルが多く含まれるもの
もあるため注意が必要です。

また、犬や猫は牛乳に多く含まれる乳糖を
うまく消化できないため、下痢などを起こす
ことがあります。ミルクは犬や猫専用のもの
を与えましょう。



! フードの切り替え方

フードを急に変わると下痢や嘔吐を起こすことが
あります。フードを切り替える時は、1週間くらいか
けて新しいフードの割合を徐々に増やしましょう。

適切なフードを与え、
犬猫の健康を守るのは、
飼い主の責任です!!



詳しい情報は
環境省HPを
ご覧下さい。



動物愛護管理室HP



飼い主のための
ペットフード・ガイドライン

発行：環境省自然環境局総務課動物愛護管理室
HP：http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/
資料：飼い主のためのペットフード・ガイドライン
作成：(一社)日本科学飼料協会
協力：(一社)ペットフード協会、(一社)日本ペット栄養学会
編集・デザイン：株式会社キタジマ



健康を守るために

ペットフードについて
考えよう!!

~あなたができること~

